

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 10 日現在

機関番号：15101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2013

課題番号：24790974

研究課題名(和文)ゲノム補完人工染色体を用いた血友病遺伝子治療モデルの検討

研究課題名(英文)Correction model of hemophilia A mice with multicopy of reprogramming factors and factor VIII gene using HAC

研究代表者

黒崎 創 (KUROSAKI, Hajime)

鳥取大学・医学(系)研究科(研究院)・助教

研究者番号：70464295

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円、(間接経費) 960,000円

研究成果の概要(和文)：これまでに遺伝子搭載サイズに制限なく、自律複製する極小染色体である人工染色体ベクターの利点を生かし、血友病Aの細胞補充療法のための第Ⅷ因子(FⅧ:FactorⅧ)発現ベクターの構築、及び移植細胞としてがん化の危険性がない安全なiPS細胞の作製を行ってきた。本研究目的は血友病モデルマウスの自己細胞から分化誘導されたFⅧ発現細胞を作製し移植することである。取得してきたクローンを用いて、FⅧHACを保持するiPSの血管内皮前駆細胞及び肝芽細胞へ分化誘導方法の確立と移植後のモデルマウス改善を確認した。ゲノム補正した幹細胞操作による自己細胞移植による補充療法をマウスモデルにより検証した。

研究成果の概要(英文)：Human artificial chromosome (HAC) vectors show considerable promise for gene therapy applications as they have the capacity to deliver an extremely large genetic region and are stably maintained independent of the host chromosome, thus diminishing risks of insertional mutagenesis. In this study, we have developed HAC vectors for gene therapy of hemophilia.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：内科系臨床医学・血液内科学

キーワード：血友病 幹細胞 再生医療

1. 研究開始当初の背景

血友病は X 連鎖劣性遺伝の出血疾患で、凝固第 因子 (血友病 A) または第 因子 (血友病 B) の遺伝子異常により発症する。治療は補充療法で、血液製剤に代わり安全性の高いリコンビナント製剤が主流となってきたが、因子は国内では依然 血漿由来製剤が使用されている。また、海外から輸入のリコンビナント 因子製剤は高価かつ供給不安定である。

製剤の長期投与による苦痛の軽減や医療費削減のための将来的な選択肢に遺伝子治療法がある。こうした遺伝子治療用のベクターとして従来から用いられてきたのは、主にウイルスベクターであるが、第 因子や von Willebrand factor (VWF) などの凝固因子の遺伝子サイズは巨大であり、ベクターへの搭載が困難である。また、投与の繰り返しによるウイルス殻に対する抗体の出現や宿主染色体への挿入による癌化の懸念などが払拭できない。

HAC ベクターの遺伝子治療への有効性を検討するため、血友病 A をターゲットとした HAC ベクターと iPS 細胞による遺伝子治療のための基盤研究をマウスモデルを用いて実施した。マウスにおいては、HAC ベクターの安定性が良くないことが明らかになってきたので、本検討でもマウスにおいて安定である MAC ベクターを用いて以下の研究を実施した。細胞あたりの発現量を高め、以下の 2 つの方法で拒絶反応や癌化の危険性が少ない安全な遺伝子治療用の MAC ベクターを構築し、自己 iPS 細胞を用いたモデルマウスによる遺伝子治療効果を検証した。

鳥取大学の世界的技術である染色体工学技術 (文科省 21 世紀 COE プログラム「染色体工学技術開発の拠点形成 (代表: 押村光雄)」) など) で開発されたヒト人工染色体は、遺伝子搭載サイズに制限がなく安定に自律複製する極小染色体である。したがって、人工染色体を用いた遺伝子治療法は、従来のウイルスを用いた方法とは異なり、がん化の懸念が無く、また、長期間の高発現維持が期待できる。

細胞移植療法では、ES (embryonic stem) 細胞が用いられてきたが、山中伸弥教授 (京都大学再生医科学研究所) により開発された iPS (induced pluripotent stem) 細胞は、ES 細胞に比べて倫理的問題や拒絶反応の問題がなく、患者専用のオーダーメイド医療を行える理想的な細胞である。

2. 研究の目的

(1) 血友病治療のための従来品よりも格段に優れた遺伝子組換え型 (リコンビナント) 製剤および新規の遺伝子治療法を開発し、患者の肉体的負担の軽減と医療費削減を目指す。

(2) 遺伝子搭載サイズに制限が無い人工染色体ベクターを用いることで、凝固因子やそ

の安定化因子、あるいは翻訳後修飾酵素などの発現ユニットを同時にタンデムに多コピー搭載することを可能にし、発現効率と安定性を飛躍的に改善する。

(3) 血友病モデルマウス由来細胞などを iPS 化して人工染色体ベクターを導入後、分化誘導して移植する最少数自己移植細胞による遺伝子治療法を開発する。

(4) 血液凝固因子は、iPS 細胞から分化させた巨核球や血小板のなかで特異的に発現させるように工夫する。これにより、出血部位に限局した凝固因子の放出を可能とし、補充療法で問題となっているインヒビター産生を抑制し、また、インヒビター存在下においても有効な遺伝子治療法を開発する。

3. 研究の方法

(1) 発現には動物細胞に強力に働く CAG プロモーターを用い、凝固第 因子遺伝子を多コピー化によりさらに発現を高める。この第 因子のマルチコピー発現ユニットの CAG プロモータードライブコンストラクトを CHO 細胞保持の人工染色体に搭載した。発現ユニットの両端はトリ グロビン HS4 インスレータで挟んだ。第 因子発現ユニットは 1 ~ 16 コピーを挿入した。

(2) 遺伝子搭載サイズに制限が無い人工染色体ベクターを用いることで、凝固因子やその安定化因子、あるいは翻訳後修飾酵素などの発現ユニットを同時にタンデムに多コピー搭載することを可能にし、発現効率と安定性を飛躍的に改善する。第 因子を搭載した人工染色体が宿主染色体とは独立に保持されていることを、蛍光 in situ ハイブリダイゼーション法 (FISH) による核型解析で確認した。また長期培養し安定性を確認する。

(3) 初期化用ベクターである、iHAC ベクターにより iPS 細胞を作製する。得られた細胞に微小核融合法によりさらに治療用ベクターである、第 8 因子発現ベクターに移入し、FISH により、人工染色体が独立して存在していることを確認した後に、in vitro において肝芽細胞、血管内皮細胞へ分化誘導させる。

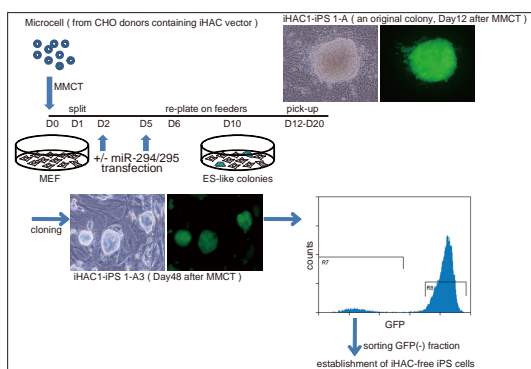
またこの治療細胞を用いてキメラマウスを作製し、人工染色体ベクターに搭載の GFP (緑色蛍光タンパク) 遺伝子の発現を指標に各種臓器での人工染色体の安定な保持を確認した。

4. 研究成果

(1) どのような細胞にも 因子を発現させるために CAG プロモーターを選択し、その下流に 因子遺伝子を配置した発現カセットを構築した。第 因子発現カセットは 1 ~ 16 コピーを挿入した。第 因子遺伝子発現カセットをタンデムに 16 コピーまで搭載した人工染色体ベクターを CHO 細胞内で構築し

た。CHO 細胞に導入したところ、第 8 因子がコピー数依存的に発現することが確認された

(2) 初期化用ベクターである、iHAC ベクターにより iPS 細胞を作製した。iHAC ベクター上に搭載されている GFP を発現している細胞の中から GFP 消失した、自然に iHAC ベクターが脱落した細胞を FACS により分取しクローンを取得した。取得したクローンについて染色体解析及びテラトーム形成を観察した。染色体核型解析より iHAC ベクターの脱落が認められ、また染色体異数性もない 40 本の染色体核型であることがわかった。テラトーム形成能と三胚葉への分化も観察され、以前までの報告のように本来の染色体ゲノムに傷をつけない iPS 細胞であり、血友病治療モデル確立のために有用であることが示唆された。



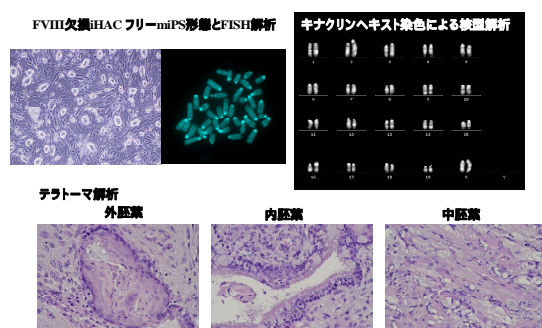
(4) 第 8 因子遺伝子をもつ人工染色体を、ここで得られた iHAC フリー-miPS 細胞へ微小核細胞融合法により導入した。クローン取得後、染色体解析と未分化マーカー、FVIII 発現を調べた。FISH 解析により FVIII-MAC が 40 本のマウス染色体から独立して維持されていることがわかった。未分化マーカーについては京大山中研から分与された 20D17K (4 因子のレトロウィルスベクターにより作製された) に比べ遜色のない発現と FVIII の発現も見られ、MMCT 導入によって FVIII-MAC が機能していることがわかった。

(3) in vitro において肝芽細胞、血管内皮細胞へ分化誘導させ、第 8 因子発現を確認した。

(4) 得られてきた血友病モデルマウス由来の iHAC free iPS 細胞の性能をさらに評価するため、FVIII 欠損モデルマウスの胚ヘインジェクションを行い、キメラマウスの作製と解析を行った。止血実験を行ったところ、iPS をインジェクションした低キメラマウスにおいても止血効果があったことから、FVIII-MAC は機能していることがわかり in vivo における治療効果を確認することができた。また、人工染色体ベクターに搭載の GFP (緑色蛍光タンパク) 遺伝子の発現を指標に各種臓器での人工染色体の安定な保持

を確認した。

現在、キメラマウスを作製できたクローンについて in vitro における分化誘導と移植生着の条件検討を行っており、モデルマウスへの移植により血友病治療できることを最終ゴールとしている。以上のことから、人工染色体を用いた幹細胞作製技術(iHAC ベクター)と治療細胞作製技術(FVIII-MAC ベクター)の両方について有用性が示された。現在、キメラマウスを作製できたクローンについて in vitro における分化誘導と移植生着の条件検討を行っており、モデルマウスへの移植により血友病治療できることを最終ゴールとしている。以上のことから、治療効果、手法などの今後の検討課題はあるが、有用な血友病治療用ベクター開発の可能性を示すことができた。



5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

Yakura Y, Ishihara C, Kurosaki H, Kazuki Y, Komatsu N, Okada Y, Doi T, Takeya H, Oshimura M.

An induced pluripotent stem cell-mediated and integration-free factor VIII expression system.

Biochem Biophys Res Commun. 2013 Feb 8;431(2):336-41. (査読有)

[学会発表](計 5 件)

Nitta N., Okada N., Goto I., Yamane M., Nakatake M., Kurosaki H., Nakamura T. Systemic cancer virotherapy with MDVW, a combined miRNA-regulated and thymidine kinase-deleted oncolytic vaccinia virus. The 19th annual meeting JSGT2013, July 4, 2013, OKAYAMA CONVENTION CENTER

Narumi Uno, Kana Ueda, Yuichi Iida, Yuna Yakura, Hajime Kurosaki, Katsuhiro Uno, Mitsuhiro Osaki, Tetsuya Ohbayashi, Yasuhiro Kazuki, Masaharu Hiratuka and Mitsuo Oshimura. Toward safe and effective gene- and cell-therapies using human artificial chromosomes and stem cells. International Conference on Genetic Engineering & Genetically Modified

Organisms, August 13, 2013, DoubleTree by Hilton, Raleigh, NC, USA

矢倉裕奈、黒崎創、石原千恵、香月康宏、土井健史、松下正、武谷浩之、押村光雄："人工染色体ベクターを用いた新規血友病A遺伝子治療法の開発" 第11回日本再生医療学会総会、2012年6月14日、横浜

矢倉裕奈、黒崎創、石原千恵、香月康宏、土井健史、武谷浩之、押村光雄："ヒト人工染色体を用いた血小板特異的FVIII発現iPS細胞の作製-新規治療法確立へ向けて" 第34回日本血栓止血学会学術集会、2012年6月9日、東京

Oshimura M, Kazuki Y, Hiratsuka M, Ohbayashi T, Iida Y, Uno N, Ueno E, Ueda K, Ohira T, Kurosaki H, Abe S, Kugoh H, Human artificial chromosomes for gene delivery, Pep Talk January 9, 2012, USA

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
<http://www.med.tottori-u.ac.jp/integbio/523/1165.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

黒崎 創 (KUROSAKI Hajime)
鳥取大学大学院・医学系研究科・助教
研究者番号：70464295

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：